

発展途上からの脱却を目指して～ナイジェリア・コンゴの現状からの考察～

A-8

1. 目的

発展途上にある国や地域の“経済的な豊かさ”を実現するために必要とされる条件の探究

2. 材料と方法

【方法①】

BRICs・発展途上国のうち数か国ずつ挙げ、1990年から2019年最新のGDP総生産値を比較。過去の政治経済的な動向を追い、経済成長の理由を考察。

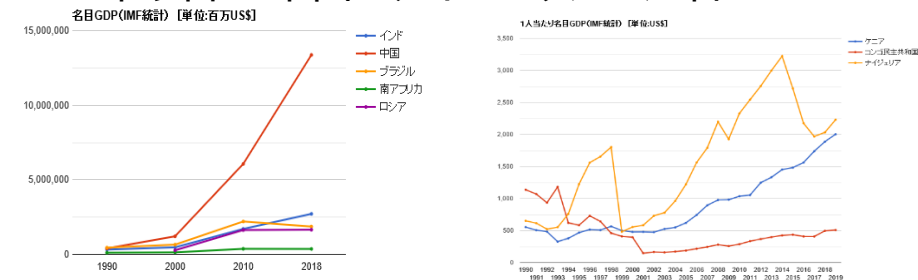
【方法②】

発展途上国の事例としてナイジェリア連邦共和国とコンゴ民主共和国を挙げ、発展途上からの脱却法を考察した。

3. 結果・考察

【方法①の結果】

2000年以降の中国とナイジェリアに注目



これらの国の政治的・経済的動向特徴や理由

中国: 経済特区を設け海外企業を誘致し、安価で潤沢な労働力を提供したことで自国の経済が活性化。

ナイジェリア: 2000年代の政策転換によって戦費が民間主導型経済の発展の為に用いられるようになり短期間で経済が発展。

【方法②の結果】

○ナイジェリア

歴史的背景: 政策転換によって著しい経済成長

地理的特徴: OPECに加盟するアフリカ最大の産油国

原油の輸出に依存するモノカルチャー経済。石油収入より累積債務のほうが大きい。国内の民族間で問題も。

解決策の考察: アフリカ最多を誇る人口
→海外企業の誘致

○コンゴ民主共和国

歴史的背景: 鉱産資源をめぐる民族間での紛争

地理的特徴: 豊かな鉱産資源に富むが、紛争が原因で有効的な活用が果たせていない。

解決策の考察: ナイジェリアに倣い紛争対策を優先することで、短期間で経済成長を図る。
それに伴う生活水準の向上
→人口(労働力)の増加
→人間開発指数世界最下位からの脱出

【考察からの課題】

○ナイジェリア: 中国に倣って海外企業を誘致するべきか?

- 課題1) 経済格差・労働者の搾取問題
- 課題2) 自然環境保護はどのように行うのか
- 課題3) 民族問題

例 輸送のしやすさを考慮し、産油地域が集中する沿岸地域に企業を誘致した場合

→ビアフラ戦争のように産油地域とそれ以外の民族間で経済的な格差から摩擦が生じる懸念



※南部はキリスト教を、北部はイスラム教を信仰する
→民族間だけでなく宗教間でも南北で衝突することが危惧される

人口の約5割が農林水産業に従事し、キャッサバ、ヤムイモ、ゴマやカカオ豆、トウモロコシを輸出するアフリカ有数の農業国。コメの生産量はアフリカで第1位(2018年)。

(外務省ホームページから引用)

日本と比較したとき、農地面積が大きく、農家数が多いのに対して生産量が低いことから生産性の改善が輸出額の増加につながると考えられる。

○コンゴ: 紛争による暮らしへの被害 大

2018年時点で1300万人を超える人々が緊急支援を要しているという現状が日本では広く知れ渡っていない。
→広く関心を得て支援を増やすべき

《私たちができること》

紛争の戦費となる、鉱産資源による収入をなくす。
⇒紛争地域で産出する“血塗られたダイヤモンド”の輸入を規制する。

他に

- ・人々の関心を得る。
- ・認定NPO法人テラ・ルネッサンスのコンゴ事業を知ってもらう、寄付を行う。

4. まとめ・結論

結果・考察より、

- (1) 紛争が発生している場合優先して対策を講じる。
- (2) 人口に富んだ国である場合潤沢で安価な労働力を生産活動に活用することでモノカルチャー経済から脱却する。

以上の条件を挙げたが、今後の展望としては地理的な課題や紛争などの大きな問題への解決法のさらなる考察が挙げられる。

【参考文献】

- 農林水産業概況, 農林水産省, 2020年。
- 地理データファイル2020年度版, 帝国書院, 2020年。
- 八木三木男「日本企業の対中国進出」京都産業大学中国経済プロジェクト, 2008年。
- 鹿野忠生「アメリカによる経済グローバル化の歴史的な前提」2000年。
- 落合雄彦「ナイジェリアにおける「民族問題」と制度エンジニアリング」2005年。
(<https://www.globalnote.jp/post-1409.html>)
(<https://www.bbc.com/news/world-africa-42250230>)